

赤門

AKAMON
HEALTHCARE GROUP

赤門だより

赤門ヘルスケアグループ広報誌

vol.37

発行日：2010年1月15日

発行所：赤門ヘルスケアグループ
広報委員会

〒294-0034

千葉県館山市沼1619

TEL.0470-25-7300

37



赤門整形外科内科
院長 宮川 準

「謹賀新年」

金泥の鶴や朱塗の屠蘇の盃 ——夏目 漱石

元旦の朝には、家族がそろってまずお屠蘇を飲みます。1年の無病息災と延命長寿を願い、年齢の若い順に盃を進めていきます。ところで「屠蘇」の語源は諸説あるようですが、原材料の「屠蘇散」は魏の名医・華佗が創製したものとされ「邪気を屠り、魂を蘇生する」効用が伝えられています。「屠る」と「蘇る」という正反対の漢字を組合わせた「屠蘇」という言葉に奥深さを感じます。

先日、認知症のご家族と面談した時のことです。患者様の実の息子さんが「自分の名前をおふくろは忘れてしまったようですが、家内の名前はしっかりと覚えているのです」と、奥様と目を合わせて嬉しそうに話されました。失われた機能を嘆かずに残っている機能を評価するという対応をごく自然にとられていました。認知症に対してまったく無知であっても家族愛がこのような対応に結びついていると感じたことでした。

他人をプラス評価し、褒めるということは意外と難しいことです。それ故に外からのプラスの評価はうれしいことです。昨年秋に「赤門なのはな館」の運営に対して総務大臣から「ふるさと企業大賞」という賞をいただきました。赤門グループの活動が外部から評価されたものと大変な励みとなりました。これまでに赤門グループは高齢者の様々な疾患・自立支援に対応すべく努力してまいりました。特に認知症に対しては永年にわたって、スウェーデンとの交流から多くのことを学びとり、認知症患者の対応に活かしてまいりました。

赤門グループは失われたものよりも残されている機能を評価する姿勢を今後も貫き、よりよい医療・看護・介護を目指してまいります。

本年もよろしくお願いたします。

赤門ホームページリニューアル！

赤門ヘルスケアグループのホームページをリニューアル致しました。各施設の紹介だけでなく、「外来のご案内」「お知らせ」イベントなどを掲載した「新着情報」を更新しておりますので、是非ご覧ください。

皆様からご要望などがありましたら、各事業所までお問合せ下さい。

よろしくお願い申し上げます。

URL <http://www.akamon.info/>



スウェーデン交流研修を行って

赤門ヘルスケアグループ 看護・介護部長 青木 由美

赤門ヘルスケアグループは、平成11年よりスウェーデンのカルマル県にあるヴェステルヴィーク市と交流をもち研修を行ってきました。

研修はグループの職員がスウェーデンに行き、ホームステイをしながら実際の介護現場でケアを行います。また、スウェーデンからは、認知症専門の医師、看護師、現場の管理者を招き当グループの介護現場に入らせていただき、スタッフへの直接指導、意見交換を行ったり、地域住民の皆様や医療福祉関係者を対象とした市民公開講座も実施してきました。

スウェーデンと日本は、社会福祉制度の違いはありますが、認知症ケアに対する考え方の基本は同じです。その人を一人の“人”として尊重すること、その人の視点や立場に立



て理解すること、その人が主体的に行動しその人らしく生活できるようケアすることです。当グループではスウェーデンとの交流で学んだ事を



生かし、個人を尊重し行動を規制することなく自由に過ごして頂くことを目指してまいりました。

今回の研修では、認知症ケアの基礎的知識について再認識すること、また、職員が日頃から困っていることなど質問し一緒に考えること、そして全ての職員に学習した内容が浸透するような企画を立てました。市民公開講座では、地域の皆様に認知症は他の病気と同じように早期に発見し適切に対処すれば、進行を緩やかにすることができると云う事を知って頂きたいと考え『認知症の早期発見』をテーマにしました。

これから、スウェーデンとの交流を生かし、地域の皆様のニーズに答えることができる様、職員一同よりいっそう精進いたします。

今後も、赤門ヘルスケアグループを宜しくお願い申し上げます。

今後も、赤門ヘルスケアグループを宜しくお願い申し上げます。

委員会活動

介護老人保健施設 赤門なのはな館

赤門なのはな館には、感染・事故対策・褥そう・教育等、様々な委員会が存在し、利用者様への予防対策や職員教育を行っています。11月には教育委員会主催の排泄セミナーを実施いたしました。排泄は生活の中のとても大きな要素であり、プライバシーに関わる大切な問題でもあります。人間にとって排泄は、自立にてトイレですることが1番であり、オムツは基本的にはしない方がよいものです。されど様々な理由にて使用しなければならない、であるならばどうあるべきか…。介護をする側はそのことを理解する必要があります。オムツ

も年々改良され、品質はもちろんのこと、介護をうける方・介護をする方双方にとっていかに快適であるかが問われるようになってきています。今回のセミナーは事務方栄養スタッフ、新人職員、中堅職員、看護職と4回に分け、内容も回ごとにその職種に則したものとしました。それぞれの立場でなにができるのかを考えなおす有意義なセミナーとなりました。今後も継続する予定です。



インフルエンザ対策 ～日常生活での予防方法～

赤門整形外科内科

日常生活ではまず、体調を整え抵抗力をつけ、ウイルスに感染する機会を減らす事が大切です。

- バランスのよい食事と休養を十分にとる
体力をつけ、抵抗力を高めることで、インフルエンザに感染しにくくなります。
- 人ごみを避ける
インフルエンザウイルスを寄せ付けないよう人ごみを避けましょう。
- 適度な温度・湿度を保つ
ウイルスは低温、低湿を好み、乾燥しているウイルス

が長時間空気中を漂っています。加湿器などで室内を適度な温度、湿度に保ちましょう。

- 外出後の手洗いやうがいの励行
手洗いは接触による感染を防ぎます。また、うがいはのどの乾燥を防ぎます。
- マスクを着用する
外出する際にマスクを着用することも有効です。また、罹患した人では、咳やくしゃみの飛沫から他人に感染するのを防ぐ効果もあります。



慶勝会 ふるさと企業大賞(総務大臣賞)受賞 医療法人社団 慶勝会



医療法人社団 慶勝会が赤門なのはな館などの運営やスウェーデンとの交流、地域生産地域消費を目指した食事の直営化が認められ、平成21年度の「ふるさと企業大賞(総務大臣賞)」を受賞いたしました。

ふるさと企業大賞とは、地域振興に資する事業活動を実施している民間事業者を顕彰し、その活動を全国に広く周知することにより、地域の振興・地域経済の活性化と魅力あるふるさとづくりの推進に資するものとして、平成14年度より財団法人地域整備総合財団(ふるさと財団)が表彰を行っているものです。

ふるさと融資を利用した民間事業者のうち、融資の対象事業が、

- (1) 地域経済及び雇用に特に貢献していると認められること
- (2) 地域のイメージアップに特に貢献していると認められること
- (3) その他魅力あるふるさとづくりに特に貢献していると認められること

に該当するものとして、各都道府県及び各指定都市から推薦のあったものを対象に、有識者からなる審査委員会の審議を経て、全国から10事業者が選考され、10月29日第一ホテル東京にて表彰されました。



クリスマス会

赤門デイサービスセンター神明町



平成21年12月24日デイサービスセンター神明町にてクリスマス会を開催致しました。午後よりボランティアとしてハーモニカ演奏活動されている柏倉さんが来館され「冬景色」や「知床旅情」等計7曲を披露して下さいました。途中「星影のワルツ」の演奏時にはご利用者皆様に演奏に合わせて唄いフロア全体が一体となる場面もあり、ハーモニカの郷愁漂う音色に酔いしれながら、口ずさまれている様子が見られました。演奏後には代表してご利用者2名よりレクリエーションで制作されたステンスル作品をお礼にお渡ししました。またおやつは特別メニューとして手作りケーキを提供させて頂くなど、普段とは違う雰囲気により一層賑やかな会となりました。これからも赤門デイサービスセンター神明町に来館されるご利用者皆様に一日を通じて「身も心も元気になって頂く」ことをモットーに日々スタッフ一同サービス提供して参りたいと思います。

グループホーム堂の下 新ユニット完成

赤門グループホーム堂の下ガーデン

この度、(株)赤門ケアサービスは、グループホーム堂の下ガーデンに新ユニットを開設し11月20日より、入居が開始しました。

堂の下ガーデンは、平成13年に開設以来8年、安房地域のグループホームの先駆的役割を果たしてまいりました。

入居者の皆様が家庭で生活しているのと同じように過ごしていただけるよう、各々の生活スタイルを尊重することを大切にしております。また、その人のできる範囲で食事作り・洗濯・掃除など職員と一緒にいきます。楽しいこと、うれしいこと、入居者と職員が同じように体験し感じることで、家族のような関係で共に生活することができます。

新家屋も、既存の家屋と同じように天井が高く、天窓から明るい光が差し込み、フロアは開放的で明るく穏やかな雰囲気漂い、ゆっくりとした時間が流れてゆきます。

既存のユニットの入居者、新ユニットの入居者、新しい職員含め大家族になりましたが、これまでの経験を生かし、より楽しく安心な生活が提供できるよう努力してまいります。



以前よりお世話になっている地域の皆様、ボランティアの皆様、ご家族の皆様、これからもご指導ご協力の程宜しくお願い申し上げます。